



トランスコーダの設定

Media Resource Manager (MRM) は、Cisco CallManager クラスタ内のトランスコーダのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco CallManager は、メディアターミネーションポイントとトランスコーダの両方の登録、および 1 つのコール内でメディアターミネーションポイントとトランスコーダの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco CallManager は、エンドポイントデバイスのためにトランスコーダを起動します。トランスコーダは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータストリームを変換します。

トランスコーダ制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコーダデバイスごとに作成されます。各トランスコーダは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコーダリソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコーダを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスコーダの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)

トランスコーダの特定

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Transcoder の順に選択します。

Find and List Transcoders ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、トランスコーダを検索します。

ステップ 2 最初の Find Transcoders where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるトランスコーダ リストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Transcoders where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているトランスコーダをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたトランスコーダのリストが、次の項目別に表示されます。

- Transcoder icon
- Transcoder name
- Description
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address

**(注)**

該当するトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Transcoders ウィンドウから複数のトランスコーダを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのトランスコーダを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Transcoder icon、Transcoder name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択したトランスコーダがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」

トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** **Service > Media Resource > Transcoder** の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある **Add a New Transcoder** リンクをクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 37-1 を参照)。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

関連項目

- トランスコーダの設定 (P.37-1)
- メディアターミネーションポイントの設定 (P.34-1)
- Conference Bridge の設定 (P.33-1)
- トランスコーダの特定 (P.37-2)
- トランスコーダの更新 (P.37-6)
- トランスコーダのコピー (P.37-7)
- トランスコーダのリセット (P.37-8)
- トランスコーダの削除 (P.37-9)
- トランスコーダの設定値 (P.37-11)
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「トランスコーダ」
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「Cisco CallManager Administration におけるトランスコーダのタイプ」

トランスコードの更新

トランスコードを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [P.37-2](#) の「[トランスコードの特定](#)」の手順を使用して、トランスコードを見つけます。
- ステップ 2** 更新するトランスコードを選択します。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 37-1](#) を参照）。
- ステップ 4** **Update** をクリックします。
- 変更を有効にするには、事前にトランスコードをリセットする必要があることを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 5** **OK** をクリックします。
- ステップ 6** **Reset** ボタンをクリックします。続けるには、**OK** をクリックします。
-

関連項目

- [トランスコードの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコードの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコードのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『*Cisco CallManager システムガイド*』の「トランスコード」

トランスコーダのコピー

トランスコーダをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.37-2 の「トランスコーダの特定」の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。
- ステップ 2** Matching records リストから、コピーするトランスコーダに対応する **Copy** アイコンをクリックします。
- ステップ 3** **Insert** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、新しいトランスコーダがデータベースに追加されます。

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコーダの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」

トランスコーダのリセット

トランスコーダをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Service > Media Resource > Transcoder** の順に選択します。

ステップ 2 Transcoders リストから、リセットするトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

ステップ 3 **Reset** をクリックします。

Reset ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 **OK** をクリックします。

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「トランスコーダ」

トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、Transcoder Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているトランスコーダを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [P.37-2 の「トランスコーダの特定」](#) の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。
ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。
このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 続行するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。
-

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」

トランスコーダの設定値

表 37-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。

表 37-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
Transcoder Type	適切なトランスコーダタイプを選択します。 Cisco Media Termination Point Hardware 、 Cisco IOS Media Termination Point 、 Cisco IOS Enhanced Media Termination Point 、または Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) のいずれかを選択してください。 これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『 <i>Cisco CallManager システム ガイド</i> 』の「トランスコーダ」を参照してください。
Device Name	このフィールドは、Cisco IOS Media Termination Point または Cisco IOS Enhanced Media Termination Point をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドラインインターフェイス (CLI) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
Transcoder Name	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
Description	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
MAC Address	Cisco Media Termination Point Hardware または Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
Subunit	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
Device Pool	デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、 View Details をクリックします。

■ トランスコーダの設定値

表 37-1 トランスコーダの設定値（続き）

フィールド	説明
Special Load Information	Special Load Information フィールドに特別のロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
Maximum Capacity	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウンリストボックスから最大容量を選択します。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」